

学校等施設の適正規模・適正配置計画

【令和7年改訂】

令和 7 年改定の考え方と主な改訂点

令和 7 年 3 月 24 日に開催された「令和 6 年度 第 2 回熱海市総合教育会議」において、市長から検討指示のあった市北部の三小学校および泉中学校についての学校施設統合に係る検討を進めてきました。

将来の本市の児童生徒数の推計傾向から考えれば、本市においては、国の示すクラス替えが可能で、学校内外での活動に支障のない規模として、市内で小学校 1 校、中学校 1 校程度になると考えますが、それぞれの地域の成り立ちや生活文化、通学利便性等を考慮すると、熱海地区に小中学校を 1 校、南熱海地区に小中学校 1 校を設置する方向で検討を進めていくべきと考えています。¹

しかしながら、令和 7 年の改訂にあたっては、市長から指示のあった市北部三小学校および泉中学校の複式学級および学年の欠損が、一定の集団での学校教育活動に大きな負の影響を及ぼすことから、この複式学級および欠学年の解消を主眼に検討するものとし、新たに設置した「学校統合検討委員会」での議論、「地域での説明」を重ね、桃山小学校への伊豆山小学校及び泉小学校の児童の編入と熱海中学校への泉中学校生徒の編入という形により、早期に教育的不利益を解消する方向で進めていくこととしました。

今後、熱海地区(旧市街地区)での小学校の統合の検討を進めていきますが、まずは課題が顕在化している三小学校と一中学校の規模等の適正化について取り組んでいくとしたものです。

¹ 令和 7 年現在の考えであり、今後の児童生徒数の変化によってこの方向性も変化するものと考えています。

次に就学前児童施設である幼稚園、保育園については、幼稚園での教育保育の申込みが減少している中で、国の新たな子育て支援制度の影響により保育園での保育希望は一層増えてきているため、幼稚園の園児数の減少に拍車が掛かってきています。

これらの社会情勢を背景にして、就学前児童施設での需要の変化に対応し、内規基準により「泉幼稚園」を休園することとしました。

さらに南熱海地区では、施設の陳腐化の進む多賀幼稚園と施設の耐震性に心配のある和田木保育園を統合し、多賀幼稚園園地内に「(仮称)南あたまこども園」を開設することで、就学前児童施設の利用者ニーズと利便性の向上に資するとともに、就学前児童教育の質の向上とその確保に努めます。

令和 8 年 3 月


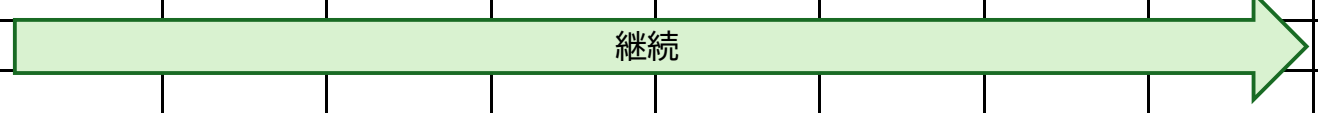


熱海市教育委員会

学校等施設の適正規模・適正配置計画(R7改訂)

学校名	今後の方向性	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
		(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	
第一小学校	児童数の減少を受けての教育環境の不適正を正すため、「伊豆山小学校」及び「泉小学校」を「桃山小学校へ編入」することとしている。この再編成した小学校の動向を見定めながら、同校との統合等を検討していく。	継続							◆統合検討	◆検討結果	◆方向性明確化	
第二小学校	中期的に認定こども園とともに小学校として維持していくが、出生数の推移及び就学前教育の需要、小学校児童数の減少速度等を注視し、将来の方向性を考えていく。	継続							◆統合検討	◆方向性明確化		
多賀小学校	市内小学校において最大児童数を持つ小学校であり、南熱海地区における基幹校として維持していく。	継続										
伊豆山小学校	児童数の減少を受けて、望ましい教育環境を達成させるために、「桃山小学校への編入」を進める。	継続						◆桃山小学校への編入検討	◆編入実施			
桃山小学校	隣接の「熱海中学校」との小中一貫教育の可能性を検討し、また望ましい教育環境を達成させるため、市北部の「伊豆山小学校」、「泉小学校」を編入する方向で学校統合を進めていく。	継続							再編校スタート		◆再編成での学校開始	
泉小学校	児童数の減少を受けて、望ましい教育環境を達成させるために、「桃山小学校への編入」を進めるために地域との話し合いを続けていく。	継続						◆桃山小学校への編入検討	◆方向性決定	◆編入実施		
初島小学校	静岡県内唯一の離島に所在する学校として、児童・生徒数の動向にかかわらず、初島小中学校として維持していく。	継続										

学校名	今後の方向性	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
		(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	
熱海中学校	平成26年度の「小嵐中学校」との統合により、市街地の基幹中学校として位置づけている。今後の生徒数の推移は、中長期的に見て減少の傾向を示しているものの、引き続き維持していく。また泉中学校生徒の受入準備も進めていく。さらに隣接する桃山小学校との分離型小中一貫校の形成についての研究・検討も進めていく。	継続								◆泉中学校受入		
多賀中学校	平成18年度の「網代中学校」との統合を経て現在に至るが、経年の傾向として生徒数は減少し続けている。中長期的にもこの傾向は継続していくと見込むが、南熱海地区の基幹中学校として引き続き維持していく。	継続										
泉中学校	生徒数の減少を受けて、望ましい教育環境を達成させるために、「熱海中学校への編入」を進めるために地域との話し合いを続けていく。	継続						◆熱海中学校への編入検討	◆方向性決定	◆編入実施		
初島中学校	静岡県内唯一の離島に所在する学校として、児童・生徒数の動向にかかわらず、初島小中学校として維持していく。	継続										

学校等施設の適正規模・適正配置計画(R7改訂)

園名	今後の方向性	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
		(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)
あたみこども園	熱海市街地の就学前教育の基幹施設として「小嵐保育園」と「緑が丘幼稚園」を合併し、令和2年度幼保連携型認定こども園として再編成した。今後も現状を維持していく。	継続 									
多賀幼稚園	南熱海地区の就学前教育の基幹施設として「和田木保育園」と合併し、幼保連携型認定こども園（仮称）「南あたみこども園」として施設の再編をする。	継続 								◆こども園へ移行	
伊豆山幼稚園	小学校の統合の実施に合わせて閉園する。	継続 		休園	休園	休園	休園	休園	◆閉園		
泉幼稚園	泉小中学校の「桃山小学校への編入」を考慮するとともに、就学前児童の現状と将来利用予測を踏まえて閉園等について決定する。	継続 							休園	◆方向性決定 ◆休園、再開または閉園	

1. 網代小学校は、令和3年度に「多賀小学校」に編入統合した。
2. 網代幼稚園は、令和3年度に実施された小学校の統合に伴って、閉園した。
3. 伊豆山小学校については、令和9年度に桃山小学校に編入を予定し、泉小学校については、令和10年度に桃山小学校に編入を予定する。泉中学校は、令和10年度に熱海中学校に編入を予定する。
4. 多賀幼稚園と和田木保育園を合併し、（仮称）南あたみこども園を開園するが、社会情勢から工期が延長し、開園時期が令和10年度からとなる予定